

# 令和4年度第1回渋川市総合教育会議 議事録

## I 開催日時

令和4年6月30日（木）午前10時開会 正午閉会

## II 開催場所

渋川市役所第二庁舎201会議室

## III 出席者

### 1 構成員

高木勉市長、中沢守教育長、今井悦子教育長職務代理者  
鳥山サカ江教育委員、岩崎恵子教育委員、都橋俊明教育委員

### 2 市長部局

伊勢市長戦略部長、星野総務部長、田中総合政策部長、鴻田財務課長  
佐藤政策創造課長、坂本政策創造課統括主幹、都丸政策創造課主任

### 3 教育委員会部局

島田教育部長、西島教育総務課長、飯塚学校教育課長  
照井生涯学習課長、須田中央公民館長、飯沼教育総務課統括主幹

### 4 傍聴者

11名

## IV 会議の概要

### 1 開会

|        |   |
|--------|---|
| 政策創造課長 | 本日は、大変お忙しい中、また、お暑い中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。<br>定刻前ですが、全員おそろいですので、ただ今から、令和4年度第1回渋川市総合教育会議を開会いたします。<br>この会議の進行を務めます、政策創造課長の佐藤と申します。どうぞよろしく申し上げます。 |
|--------|---|

### 2 市長あいさつ

|        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 政策創造課長 | それでは、開会にあたりまして高木市長からごあいさつを申し上げます。 |
| 高木市長   | おはようございます。今年度に入って第1回目の渋川市総        |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>合教育会議を開催いたしました。教育委員の皆さんには、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されまして、市長部局と教育部局が一緒になって、教育の問題を考えていこうということで始まりました。そして、教育長が市町村任命ということになって、中沢教育長がその初代になりますけれども誕生しました。教育委員さんにも知識を生かしていただいて、一緒になって渋川市の子どものために、そして、教育都市渋川を目指して取り組んでいただいております。心から感謝申し上げます。</p> <p>今日の会議は、一つは、渋川市教育振興大綱策定方針案についてでございます。二つ目が、コミュニティ・スクールについてでございます。今年度からコミュニティ・スクールがスタートしました。順次、全市に広げていきたいと思っています。三つ目が、小中一貫教育についてでございます。まだ渋川市に方針が出ているわけではありません。全国的に見ますと、少子高齢化の中で、コミュニティ・スクールが導入される中で、学校の教育のシステムを変えていくというところもあります。法制度も変わってきています。そういったことを踏まえて、今後、渋川市において、小中一貫教育というものが取り入れられるべきものなのかどうか、そういうことも含めて幅広いご意見を伺えればと思っております。</p> <p>総合教育会議でこれまでいろいろな課題について、協議をし、そして、実現に結びついてきたものもたくさんあります。これからの渋川の子どもたちを育てるためにいろいろなご意見を伺いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございます。</p> |
|--|---|

### 3 教育長あいさつ

|        |  |
|--------|--|
| 政策創造課長 | <p>ありがとうございました。続きまして、中沢教育長からごあいさつをお願いいたします。</p>  |
| 中沢教育長  | <p>改めまして、皆さんおはようございます。総合教育会議が始まって数年たちますけれども、教育問題というものは、独自性を保ちながらも、教育問題は、市全体で考えていかないと</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>前に進めない。そういうところもあります。そして、教育委員会の中でも学校関係だけのものではなくて、地域やあるいは施策の中で、市全体のこれからの渋川市の課題の中の大きな部分を占めてくるものがありますので、このような機会を大事な機会として捉え、教育委員さんにお集まりいただいておりますけれども、思うところを自由に話していただく場面かなと思いますので、よろしくをお願いします。</p> |
|--|---|

#### 4 議題

|        |  |
|--------|--|
| 政策創造課長 | <p>ありがとうございました。本日は、今年度初めての会議でありますので、委員の皆様から自己紹介という形で簡単なごあいさつをお願いいたします。</p> <p>名簿3番の今井職務代理からお願いいたします。</p>                   |
| 今井職務代理 | <p>皆さん改めましておはようございます。教育長職務代理者の今井です。よろしくをお願いします。</p>  |
| 鳥山委員   | <p>皆さんおはようございます。4番の教育委員の鳥山です。よろしくをお願いします。</p>  |
| 岩崎委員   | <p>皆さんおはようございます。5番の教育委員の岩崎恵子と申します。よろしくをお願いします。</p>   |
| 都橋委員   | <p>皆さん改めまして、おはようございます。昭和25年生まれ71歳の新採用でございます。不慣れなところがたくさんありますので、皆さんいろいろ教えてください。また、自分も一生懸命勉強させてもらいます。よろしくをお願いします。</p>        |
| 政策創造課長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、職員の自己紹介を市長部局、教育委員会部局、事務局の順にさせていただきます。市長戦略部長からお願いします。</p> <p><b>【市長部局・教育委員会部局・事務局あいさつ】</b></p> |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 政策創造<br>課長               | <p>資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、当会議の設置要綱がございます。それと、資料 No. 1 の関係が 2 つございます。続きまして、資料 No. 2 の関係が資料 No. 2 と No. 2 - 2 ということで 2 部ございます。続きまして、資料 No. 3 が、No. 3 と No. 3 - 2、No. 3 - 3 ということで 3 部ございます。資料は以上になりますが、不足している資料はございませんか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。</p> <p>続きまして、本日の会議を傍聴したいとの申請がございました。本日の会議は公開の会議でありますので、これを認めることについて、ご異議はございませんでしょうか。</p> |
| 出席者                      | 異議なし  |
| 政策創造<br>課長               | <p>ありがとうございます。</p> <p>異議なしということでありますので、傍聴することを認めさせていただきます。また、本日の会議資料につきましても提供いたしますので、ご了承くださいませようお願いいたします。</p> <p>それでは、傍聴を希望する方に入室いただきますので、少々お待ちくださいませ。</p> <p><b>【傍聴者入室】</b></p>  |
| 政策創造<br>課長               | <p>それでは、次第 4 の議題に移らせていただきます。渋川市総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項の規定によりまして、「市長は総合教育会議の議長となる。」とされておりますので、これからの進行につきましては、高木市長をお願いいたします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合上、発言される方は氏名をおっしゃってから発言されますようお願いいたします。</p> <p>それでは、高木市長、進行をお願いいたします。</p>   |
| 高木市長                     | <p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくをお願いいたします。</p>  |
| (1) 渋川市教育振興大綱策定方針(案)について |   |
| 高木市長                     | まず、渋川市教育振興大綱策定方針(案)について、総合政   |

|            |   |
|------------|---|
| 高木市長       | <p>策部から説明をお願いします。</p> <p><b>【総合政策部 説明】</b></p> <p>はい。説明が終わりました。皆様からご意見ご質問がありましたらお願いします。</p>   |
| 今井<br>職務代理 | <p>令和5年度から令和10年度までの6年間を計画期間とする第3期渋川市教育振興大綱を策定するというところで、12市の大綱の資料をいただきました。大変興味深く他市の大綱を拝見いたしました。人口20万人、30万人規模の都市では、飛躍的な表現のある大綱もございますが、他市との人口を比較してみると、渋川市は12市の中では、ちょうど真ん中あたりでしょうか。この規模だからこそ、まとまり感をもって取り組める教育施策も数多くあると思います。</p> <p>資料No.1の2ページをご覧ください。大綱の位置付けの渋川市のところですが、渋川市総合計画と整合性を持たせて、渋川市教育振興大綱を策定するということですが、この総合計画についてお伺いします。ちょうど、第2次渋川総合計画を策定するときの審議会の委員を務めておりましたので、こちらの資料をもとにして質問いたします。後期基本計画の計画期間が2023年度令和5年度から令和9年度となっています。そうすると、第3期渋川市教育振興大綱と始まりの年度が一致しますが、この両者の関係についてお伺いします。</p> |
| 総合政策<br>部長 | <p>大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。総合計画につきましては、今井職務代理がおっしゃったとおり、現在、後期基本計画を策定しております。現在につきましては、第2次総合計画の前期基本計画を参考に大綱を策定しております。総合計画は、市の羅針盤でございますので、確認しながら、教育振興大綱にも合わせた形の整合性をとっていきたいということで、この資料にございますとおり。2ページの総合計画とその下の渋川市教育振興大綱について、整合性を図っていきたいと思います。そして、また、委員おっしゃるとおり、今、総合計画については第2期ということで、令</p>   |

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>今井<br/>職務代理</p> | <p>和5年度から新たな後期基本計画を進めております。時代のニーズに合わせて調整を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>ありがとうございます。5月から6月にかけて市の意識調査が行われていると思います。中学生高校生などの若い世代を含め市民意識調査、また、12月に行われる市民意見公募なども含めまして、市民の声がどのように総合計画に反映していくのかお伺いいたします。</p>  |
| <p>総合政策<br/>部長</p> | <p>ありがとうございます。</p> <p>市では市民の声を伺うために、毎年、市民意識調査を行っております。</p> <p>総合計画について、市民意識調査をするとともに、今回については、計画策定ということでございますので、先ほど説明をさせていただきました、策定に特化した市民意見公募を図っていくということで、意見を公募して、皆さんの意見を反映していきたいと考えています。</p> <p>教育振興大綱については、先ほど説明のとおり、市民意見公募の意見を教育総合会議で確認していただいて、反映できるかどうかを確認していただければと考えております。</p>  |
| <p>今井<br/>職務代理</p> | <p>ありがとうございます。こちらを伺った理由は、市民が、渋川市のイメージとして、心に思い描くものを大切にし、大綱に反映できると良いと考えております。</p> <p>例えば、第2次渋川市総合計画策定時に、中学生高校生意識調査では、まちづくりに期待するものとして、「安心安全」の次に、「自然」が上位に入っていました。渋川市は自然が豊かであると認識しているのであれば、自然を大切にする心を育む。もっと掘り下げていくと、自然を大切にする。そして、何よりも、人を大切にする。そういった心を育むなど、その言葉そのものを使わなくても、そういった意味を含む表現ができるのではないかと思います。</p> <p>現在の渋川市の大綱をご覧ください。資料 No. 1 - 2 の 65 ページの第4の大綱の目的の4行目です。お互いを尊重し</p> |

合い、学びつつ、充実した毎日を送ることができることを目指すものとあります。実によく練り上げられた内容で、人を大切にする、大切なものを学んでいく、それが含まれる表現だと思います。こちらを策定した時は5年前で、当時はコロナ禍など考えもつかなかった時期です。それが、コロナ禍において、「学び合い、励まし合い、ともに生きる」まさに大変な時こそ、こうあって欲しい。時代が変化しても変わることのない目指すべき教育を現していると思います。渋川市は目新しさよりも、いつの時代でも変わらない大切なことを表現したものが大綱になっていると良いと期待しております。

また、教育都市渋川について、私は教育都市という言葉聞いた時に持つイメージを常日頃考えているのですが、いくつか例を挙げますと、教育都市とは、「子どもを安心して産み育てられる施設や相談窓口が充実している」「身近なところで芸術作品や文化財に接することができる」「様々な講座がそれぞれの年代に応じて、公共機関で受講できる」「市民の学習、文化活動が活発である」など、そういったことが思い浮かべられます。教育都市を目指すのであれば、目指している教育都市とは、どのような都市なのか、より具体的に捉えておく必要があると思っています。今回の大綱については、第1回目の協議ということですので、今後も対話を大切にしながら、議論をしていただけたら良いと思います。私の方からは以上です。

高木市長

ありがとうございます。私も5年前の大綱を見て、コロナが想像もされていなかったということですがけれども、コロナでいろいろな変化があっても、変わらないものは変わらない、普遍的なところはしっかりと押さえていかなければいけないと思いました。不易流行という言葉がありますけれども、守るものは守って、変えるところは変えるということは、教育の世界でも大事ではないかなと思います。

教育都市を私も踏まえているんですけども、教育都市渋川を目指そうと、私の公約にもうたっているのですが、教育都市は何かと考えた時に、一人ひとり考え方が違うと思いますし、教育都市にいろんな思いを込めるものを展開していけ

れば良いなと思います。それは市民の意見をいろいろ聞いて、その方向を、時代によっても変わっていくかもしれませんが、不易流行の精神で変えるものは変えていく。ありがとうございました。他にご意見ございましたらお願いします。

岩崎委員

渋川市の教育振興大綱を拝見させていただきました。第2期から第3期に変わるところで、大きな変化というのは、社会情勢の変化が一番大きいと思います。その中で、資料の1-2の66ページにございます大綱の方針をご覧くださいと、1番から6番の方針は本当に素晴らしいことであり、これからこういう人間を育てていきたいという渋川の方針であることは、大変理解できるのですけれども、もちろんこれは基本的なことで大事なことだと思います。これを踏まえた上で、どのような取組を具体的にしていくのかということ、もう少し掘り下げて対策を考えていきたいなと感じました。例えば、家族を愛する心を育むという方針がこちらにございますが、それに対して、渋川市としてどのような取組をされているのかなという疑問がありました。例えば、家族を愛する心を育むという時に、一番大事な家族の基本の単位というのは、家庭であると思います。その時に教育というのは、学校教育、社会教育、そして、家庭教育があると思います。その家庭教育について渋川市で触れた文言が聞いたことがなかったもので、文部科学省では平成28年度から家庭教育を大事にしていまいしょうという、こういった家庭教育支援チームをつくりまいしょうという資料がこちらにあります。こういった家庭教育というのは何かというと、子どもが正しく育つためにそういうことをまいしょうということを掲げるだけではなくて、掲げることを大事にするチーム団体を行政として支えていまいしょうということを国が押し出しています。渋川市にこういったものがあるということはあまり聞かないですけれども、今ある家庭教育を支援するチームとして、渋川市で認識しているものはどういったものがあるのか。もし、あれば教えていただきたいですし、私の認識では、例えば、子ども劇場さんや市民児童委員会であるとか、子育てサロンなどが家庭教育を支えているのだと思うんですけれども、あとは、

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>総合政策<br/>部長</p> | <p>子育て支援センターが新しくできまして、子育て支援センターがどのように機能していて、子どもの育ちに影響をするのかということも関わってくると思いますので、そのへんを教えてくださいいただければと思います。</p>   |
| <p>高木市長</p>        | <p>家庭教育の大切さということで、渋川市の認識と言うことでございますけれども、委員おっしゃるとおり、渋川市では、子育て総合支援センターで、保育を受けていない子どもたちを、ここで指導できるような形で対応しているところでございます。メールでの情報も各家庭、保護者の皆様にお届けできるような形で対応しているところでございます。今後、次期教育振興大綱につきまして、方針をしっかりと進めていくためには、教育委員皆様のご意見をいただきながら、進めていきたいと考えております。よろしく申し上げます。</p>    |
| <p>教育部長</p>        | <p>家庭教育について、教育委員会でも何かありますか。</p> <p>家庭教育について、公民館の活動の中で家庭教育を取り上げた講座等を行っています。それと併せて、生涯学習課で家庭教育支援事業という事業を設けておりまして、その中で、学校が対象になりますが、学校で家庭教育に関する講座、講習会、研修会を開くような場合、補助を行っています。公民館で多くの方に家庭教育について学んでいただく機会を、さらに充実させていくことは必要かなと思っているところでございます。</p>                   |
| <p>岩崎委員</p>        | <p>ありがとうございます。この家庭教育というのを前提として、学校教育や社会教育をこれからも推進していただければと良いかなと思っております。ただ、その時に困難な家庭が現在たくさんございます。コロナ禍で不登校と認められた児童生徒がたくさんいると聞いております。また、不登校と認められていなくても、学校に行ったり行かなかったり、家庭の経済状況や健康状態が不安だったり、様々な理由で学校に行きたいけれども行けない、又は学校に行きたくなくなってしまったお子さんがいるとも聞いております。全ての子ども、</p> |

|      |  |
|------|--|
| 高木市長 | <p>子どもを支える大人も笑顔で暮らせるようなまちづくり、教育都市を目指していただけるのが一番だと思っております。</p> <p>この大綱は、1年間かけて皆さんで議論していくものですので、様々な背景を持っている方たちの意見を汲んでいただければ良いかなと思っております。よろしく申し上げます。</p> <p>教育大綱の中で、家庭教育の役割は非常に重要だと思います。小野上は「小野上共育」という昔から伝統ある精神、考え方がある。「小野上共育」は、教える育てるではなく共に育てると書く。小野上は家庭と地域が一緒になって子どもを育てようという精神が脈々と流れている地域だと思います。小さい地区ではありますが、こういったことを、大綱の中でも考え方を取り入れて良いと思います。具体的に実際に実践している「まんま小野上チーム」とかね、今でも活動しているのですかね。どんな活動をしているのですか。</p> |
| 岩崎委員 | <p>多世代のサロンということで掲げていたもので、多世代で集まってご飯を食べるということを大事にしたサロンです。コロナ禍で感染症に対する恐怖心から活動を停止していたんですけれども、今年度から少しずつ活動を活発化していきたいと思っています。今、棚田で田植えをする。その棚田で作ったお米を食べるということを目標として、地域の方に協力していただいて、そういった活動をしております。</p>  |
| 高木市長 | <p>家庭教育というと、それぞれの家庭だけではなくて、家庭同士が一緒になって、そういったチームでやっていくと良いと思います。</p>   |
| 鳥山委員 | <p>私も他市の大綱を読ませていただきました。渋川市では地域地域による社会情勢の変化や少子高齢化に伴い、地域の小学校や中学校の合併が何度もありました。これについて、みなさんの意見はどのような意見があったかどうかお聞かせいただきたいです。</p> <p>これから進んでいくことに対して、地域の実情に合わせたそれぞれの家庭、地域、学校との取組も、今までも行われてい</p>   |

|                    |   |
|--------------------|---|
| <p>総合政策<br/>部長</p> | <p>と思いますので、私たちは関わっていくことが難しいと思<br/>っていないのですが、合併した小学校がいろいろなことを行<br/>って進んでいくのに大切になっていくのではないかなと思<br/>います。</p> <p>先ほど岩崎委員が言っていました家庭教育は本当に大事だ<br/>と思います。</p> <p>ありがとうございます。資料 No. 1 の 3 ページをお願いし<br/>ます。3 ページの上から 2 行目になりますけども、統廃合の<br/>関係は大変大切な関係でございますけども、少子化に伴う小<br/>学校の複式学級の発生等の現状を踏まえ、地域の合意形成を<br/>得た上で、小中学校の再編統合を進める必要がありますと言<br/>うことで、調整を進めているところです。補足があれば、願<br/>いします。</p>   |
| <p>中沢<br/>教育長</p>  | <p>少子化の中での学校のあり方ということであると思いま<br/>すが、これまでも教育にあたる小中学校の望ましい教育のあり<br/>方の方針では、令和 8 年度までの方針に従って、地域の合意<br/>形成が非常に大事だという中で進めてまいりました。学校の<br/>再編統合という問題は喫緊の大きな課題であると認識してお<br/>りますし、それが何も学校教育のものだけではなくて、地域<br/>に関わるというところが、特に渋川市は地域の学校という意<br/>識を非常に大切にされてきたし、それは貴重な教育資源にな<br/>っていますので、そのへんは無視できないと思うのですが<br/>も、そのへんをさらに乗り越えて渋川市全体の中で、これか<br/>ら学校再編をどうしていこうかという大きな方針を決めてい<br/>かなければならない大事な時期に来ていると思います。それ<br/>で今年教育委員会の中で、教育都市渋川を考える協議会かな、<br/>その中で、まずはこれからの学校再編のあり方と言うことで、<br/>教育委員さんを交えた外部有識者を入れた会議をまもなく開<br/>いて、どのように進めていくか、一番最初のところですね。意<br/>見を聞き取るそういう会議をこれから教育委員会と一緒にや<br/>らうと思うのですが、鳥山委員がおっしゃったように総<br/>合教育会議の大綱の中で、教育委員会だけではなくて、市全<br/>体で考えると言うことで、これまでとはさらに違って大きな</p> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>渋川市全体の各部所の総合政策部ももちろんですけども、いろんな方に出ていただいたり、あるいは地域の代表の方にも出ていただきながら、本当の再編統合のあり方、渋川市のこれからの学校のあり方、そんなことを考えていければ良いかなと言うことで、まさに動き出そうとしているところです。さらにご意見をいただければと思います。学校というのは、教育委員会に閉じたものではなくて、さらに大きな渋川市そのものの繁栄につながるものと考えています。慎重にかつ一生懸命取り組んでいく必要があると思っています。</p>                                    |
| 鳥山委員   | <p>ありがとうございました。皆さんが良い案を出してくれると思いますので、地域の人たちと意見を交わして、一番良い方向を取っていただければと思います。よろしく願います。</p>   |
| 高木市長   | <p>学校の規模はどれぐらいが良いのかは、非常に考え方が分かれるところです。前期の再編の時に委員長をしたことがありまして、小野上中学校と子持中学校が統合しました。あの時は、それぞれ学校を組み合わせていこうということだったと思います。これからは、渋川市全体を考えていかなければならないと思います。人数だけではなくて、いろんなやり方があると思いますけれども、小中一貫校とかいろんなシステムもありますので、これから皆さんの意見を聞いて考えてみたいと思います。</p>  |
| 市長戦略部長 | <p>先ほど、岩崎委員、鳥山委員から家庭教育の大切さというお話をいただきました。今回の資料1の大綱の策定方針案の4ページになります。先ほど岩崎委員から家庭の対応が様々な問題があるということをも十分に配慮していただきたいというご意見をいただきました。「オ 子どもの貧困などの経済的格差」の部分については、これまでの第1期第2期の大綱の中にはなく、新たに加わった部分になっております。特に、ヤングケアラーと言われます家庭で本人が望まない状況でいろいろなことを背負っている子どもたちがいることも社会問題になっております。その背景には、経済的、また、いろいろな環</p> |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>境ですとか家族の構成、様々な背景がございます。そのようなことについて、行政が支援を押しつけるのではなく、支援が必要とする家庭の望む方法をきちんと把握をし、望む形で支援をしていく。また、現状をしっかりと把握していくという方向で進めていきたいと思っております。現在、全庁にあたりますので、介護、福祉、また、教育様々な分野で、このヤングケアラーに対する支援、また、把握の方法等を検討しております。家庭教育は基本のところもありますが、現在、困って声を上げられない人への支援もしっかりと取り組んでいきたいと思っております。</p>   |
| 高木市長       | <p>ヤングケアラーの問題もいろいろ議論してはいますけども、新しい課題として考えていきたいと思えます。</p>   |
| 今井<br>職務代理 | <p>資料 No. 1 の 5 ページの本市の状況というところで「ア共生社会実現のまちの実践」というところがあります。全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが自分らしく生き生きとした人生を送り、様々な人々の能力が発揮されている活力ある社会の実現を目指した取組とあります。共生社会という言葉の意味を大事にさせていただけたらと思います。</p>  |
| 高木市長       | <p>都橋委員は総合教育会議は初めてですが、いかがですか。</p>   |
| 都橋委員       | <p>お話を聞かせていただいてありがとうございます。こういった大綱を作るのは、ものすごく大変で万人に共通でなければいけないと思いますが、皆さんのおっしゃるとおり、合併後の渋川市ということで、地域事情が変わっています。私がいちいち接する中で、現大綱の他者の痛みが分かる思いやりと優しさに満ちた人は、個人的に大事にして欲しいなと思います。最近の社会事情から親が子どもを痛めて最終的に死に至らしめるという実情が生まれています。ぜひ、このへんのところ、子どもの教育に取り組んでいただければありがたいなと思います。言葉で言うのは分かるのですがけれども、それに対して具体的にどう取り組んでいくのかということ、一</p> |

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>高木市長</p>       | <p>般の人たちに分かりやすいように明示していただければありがたいなと思います。よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。教育大綱の中で取り入れていければと思います。</p> <p>子どもの数や、教職員の働き改革も叫ばれております。そういった中で、中学校の部活の地域移行という問題も喫緊の問題だと思います。この間も部活の指導者からご意見をいただきました。そういったことも課題として考えていかなければいけないと思います。</p>   |
| <p>中沢<br/>教育長</p> | <p>最後に、教育振興大綱が総合政策部を中心に議論していただき、市全体で取り組もうということがありがたいと思います。前回の大綱作成時の議事録を読んだのですが、非常に細かく議論されて、苦勞してできあがっている。それで、洪川市の教育委員会が作成している教育行政方針は、大綱を基にして、このキャッチフレーズを使いながら、理念を受け継ぎながら、そして、教育委員会としての教育行政方針をつくることができました。教育都市洪川という言葉も大綱の中に載っていたので使いました。「学び合い、励まし合い、ともに生きる」このへんのことを具現化した学校教育に関わる部門、生涯学習に関わる部門について、作っています。それを見直す今回にあたり、不易の部分をしっかり押さえながら、新しい時代のことも意識していかなければいけないと思います。一つは、学校教育の中で大事にしているのは、洪川市の学校というのは、地域に支えられた、地域の学校であるという認識のもとに、ふるさと学習をずっとやってきて、公民館でも力を入れてきて、その成果が出ています。このへんのことを大綱に強調しても良いのかなと思っているところもあります。それから、グローバル教育というのも、今度の大綱の中の視点に出ていますけども、今、子どもたち、あるいは大人もそうかもしれませんが、コミュニケーション能力を大事にしなければならぬ。非常にコミュニケーションがしづらくなってきた中で、やはり、人と人とのつながりというか、困難な状況を迎えている。そういうコミュニケーション能力を高めるた</p> |

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
|                                   | <p>めの、それが一つのグローバル教育、英語教育になっていると思います。英語教育は何も学力の一つとして捉えるのではなくて、コミュニケーション能力を高めるための英語教育だと思っていますので、これが大綱の中から道筋として出てくれば良いなと思っていますところがあります。それから、指摘されていますように課題の中では、学校が楽しくなくちゃいけない、学ぶことが楽しくなくちゃいけない。そういう学校を作ることも大事ですけども、生涯学習の中でもみんなが楽しく学んでいくそういう渋川市をつくりたいという願い。教育は教え育てるですが、今は、自ら学ぶ、主体的に学ぶことが大事になってきますので、そのへんが強調されると良いかなと思います。それと、渋川市が何十年も前から行っている平和教育。昨今、世界情勢もその大切さが浮かれてきているのではないかと思いますけども、平和教育を渋川市としては平成4年頃から子持中学校が広島行きを決めた時から、平和について考えていこう。これは、引き継がなければならないものですよ。語り部が生存されている中で始めたのが子持中学校です。広島県が日本の中で引き継がれていると思うので、そういうことも大事にしながら、市民一人ひとりが平和を考える。きっかけを子どもたちに与えていきたいと思うし、市民全体で考えていけるようなそういうのも、この共生社会と結びつけていけば良いと思うのですけれども、大綱の中に入れていただくと良いと思います。これは、まだ協議する時間がたくさんあると思いますので、ご検討いただければ良いと思います。</p> <p>渋川市長 不易の部分はしっかりと守って、そして新しい課題に対応すると、そして、新しい大綱を作っていくことでスタートしていきたいと思います。</p> |
| <p><b>(2) コミュニティ・スクールについて</b></p> |   |
| <p>高木市長</p>                       | <p>それでは、次にコミュニティ・スクールについて、教育部から説明をお願いします。</p> <p><b>【教育部 説明】</b></p>  |

|            |   |
|------------|---|
| 高木市長       | <p>ありがとうございました。コミュニティ・スクールの導入については、教育総合会議で何回も行いました。ようやく形になってきて、今年度から具体的に動き出したというところまでできました。まだまだいろいろな課題があると思いますが、委員の皆様からご意見がありましたらお願いします。</p>  |
| 今井<br>職務代理 | <p>コミュニティ・スクールについては、令和元年度の総合教育会議で初めて議題として取り上げられました。調査・研究を進めているということで、行田市で視察研修を行いました。また、令和3年度は藤岡市の教育委員会の方にお越しいただき、研修を重ねてまいりました。そして、今年度、市内小中学校8校において学校運営協議会が設置され、コミュニティスクールへと移行しました。第1回運営協議会の会議はそれぞれ終了しております。今までの三者連携推進協議会や学校評議委員会とどのように異なっているのか、また、今後地域と一体となった取組についてなど課題や問題点が上がってくると思いますが、令和6年度には市内全小中学校に展開される予定となっています。そこで、今年度のコミュニティ・スクールへ移行した先行事例を全校展開するためにどのような場を設けて導入過程や課題を共有していくのか、こちらを学校教育課から説明していただきたいと思います。</p> |
| 学校教育<br>課長 | <p>6月に第1回の会議が開かれ、今後も順次3～5回ぐらい行われると思います。学校教育課としては定例校長会議を行っております。その中で報告をしていただいて、これから導入する学校の参考にして、そして広めていき、さらに、実際今年度やってみて、成果が出ているところや良かったところと、いろいろ出てくると思うので、それを、校長会議、さらには午後に行われる校長協議会、そういうところで広めていければと考えております。</p>   |
| 今井<br>職務代理 | <p>そうすると、毎月何らかの形で報告のようなものが上がってくる感じでしょうか。</p>  |
| 学校教育       | <p>7月は直近明日校長会議があるのですが、今後、随時、そう</p>  |

|            |  |
|------------|--|
| 課長         | <p>いうものを計画しながら、校長先生方に報告していただく機会を設けていきたいと思います。</p>  |
| 今井<br>職務代理 | <p>今年度コミュニティ・スクールに移行した8校は、一つの小学校から一つの中学校というタイプもあれば、複数の小学校から一つの中学校という学校区もあります。今後、学校運営協議会の会議を重ねるにしたがい、地域ごとの特色がよく表れてくるのではないかと考えております。</p> <p>資料 No. 2-2 をご覧ください。下の図の学校と地域の連携・協働体制というものです。左側の学校運営協議会が設置されたコミュニティ・スクールに対し、右側が地域学校共同本部で、対象となるのは保護者、地域住民、PTA等とあります。両者をつなぐコーディネーターの役割を果たしている地域学校協働活動推進員の働きかけによって具体的な活動が行われることとなります。例として、下の方にあるのですが、協働活動には地域人材育成、郷土学習、協働防災訓練、学習・部活動等支援、花壇整備、登下校の見回り等こういったものがあがっております。それぞれの学校で必要とされる活動が、今後活発に実施できるよう期待しております。また、コミュニティ・スクールは学校を核とした地域づくりも目指しております。現在、少子化が急速に進んでいる時代です。子どもたちを地域全体で大切に育て、そして、地域も活性化していくことを願っています。私からは以上です。</p> |
| 高木市長       | <p>ありがとうございました。コミュニティ・スクールは言葉がカタカナなので新しいことかなと思いますけれども、もともと昔はコミュニティ・スクールだったのかなと私も思います。学校員があつて、学校から山をみんなで切り出してきて学校を建てたり、あるいは、春になると山に下草刈りに子ども頃に行った覚えが私もあります。そういったことが、だんだん薄れてきたのかなという感じがしますけれども、改めて、学校というのは地域と共にあるものだなと思います。新しいコミュニティ・スクールという考え方で、地域と一体となって学校を作っていこうということだと思っておりますけれども、仕組みとしては、いろいろなことが考えられると思いま</p>   |

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>学校教育<br/>課長</p> | <p>すので、これからは地域の特色にあったコミュニティ・スクールが増えると良いと思っております。</p> <p>今朝の上毛新聞を見ましたら、吉岡中学校で子どもが地域の自治会と資源ゴミの回収ボランティアをやっているという記事が出てましたけれども、そういうことを渋川市でも行っているのか分かりませんが、私も市長になる前に自治会長をした頃、子持中学校で学校の木が大きくなったので木を切るボランティアを募りましょうと回覧を回したところ、多く集まってくれまして、学校の木を切り、そして、子どもが一輪車に木の枝を乗せて運ぶ、一緒になって学校の環境整備をしたことがあります。今、思えば、こういうこともコミュニティ・スクールなのかなと感じます。</p> <p>渋川市は三者連携推進協議会の歴史がありますので、そのところの整理が大事だと思います。三者連携推進協議会と平行していくのか、あるいは、三者連携推進協議会はいらなくなったのか、いろいろなことがありますので、三者連携推進協議会とコミュニティ・スクールとの関係を説明していただけると良いと思います。</p> <p>三者連携推進協議会は10数年行われて、各学校とも軌道に乗った充実した組織でありました。学校・家庭・地域のそれぞれの思いを、学校が主導になって進めていたものですが、ご協力いただきながら実施していたのが現状です。例えば、過去にさかのぼりますと、いじめなどの問題、携帯電話の所持率から始まって、今では所持率から持つことが当たり前になってきた中で、マナーであるとかが中心になったり、最近では、子どもの安心安全そして地域愛、そういうところが中心になってきたのかなと思います。三者連携というのは、それぞれ学校が招集してやってきたわけですが、学校運営協議会との違いは何かと言いますと、コミュニティ・スクールは、先ほど、教育部長から説明があったように、まずは、学校長の経営方針があります。学校をこういう学校にしたいんだ。こういう行事をしたいんだ。こういうことを一緒に行いたいんだ。そういう学校の経営方針。学校の大元になるものです。そこに協力してくれる様々な人を運営協議員として参</p> |
|--------------------|--|

|                   |   |
|-------------------|---|
| <p>中沢<br/>教育長</p> | <p>加していただき、そして、経営方針を説明し、理解していただき、そして、校長が悩む時に後ろ盾というか、後押しをしてくれるそんなものになってくれると良いのかなと思います。</p> <p>三者連携は、市全体でこういうことをやりましょうというものでしたが、コミュニティ・スクールは、それぞれの学校、あるいは学校区、地域の実情にあった取組になっているものかなと考えております。</p> <p>補足させていただきます。三者連携推進協議会については、学校が主導になって組織をし、そして、学校が今の願いや地域の願いをしていただいたという状況です。コミュニティ・スクールは、資料2の1番の最後の方に書いてあるように、このような取組は、それ自体生涯学習であり、保護者や地域住民がこれまで培った知識や技術を学校や地域の課題解決に生かせる自己実現の場、仲間との生きがいつくりの場にもなり、地域コミュニティの活性化にもなるものであります。つまり、学校のためではなくて、地域の活性化にもなるんですよと、両方がウィン・ウィンになる。地域が学校に協力しますよということではなくて、子どものために一緒に地域も活性化していこうというのがコミュニティ・スクールです。コミュニティ・スクールという名前が付いているので、学校のためのような感じかもしれませんが、それだけではなくて、地域の活性化、生きがいつくり、コミュニティづくりに役に立つということ。これがコミュニティ・スクールにする大きな違いです。そして、学校評議員は評価をしていた。そこは、両方併せて、学校運営協議会の委員さんに一緒にやっていただいて、生きがいつくりをするだけではなくて、評価をしていただく。だから、学校評議員会は解消。三者連携推進協議会と合わせて、学校運営協議会ができたということです。分かりづらいですけれども、地域も活性化を狙っている。狙っている両方が当事者ですということです。学校はいろんなものが期待されて入ってきます。箸の持ち方や道路の歩き方まで学校でやってください。人権教育も環境教育もみんなやってください。もちろんそうなんですけれども、それをみんなで考えましょうよ。例えば、安全教育、学校が年度当初に行いま</p> |
|-------------------|---|

す。信号機をつけたり、道路の歩き方などを行います。公民館の指導員の養成講座の中で、提案されたのは、そういうのを地域活動としてできないか、公民館行事で低学年の地域の子どもを集めて、道路の渡り方とか危険回避能力を育てられたら良いなと思います。あるいは、自然体験、学校は体験活動を重視していますが、限界がある。そういう体験活動を一生懸命やりながら、土日を中心としてできるだろう。より主体的に地域が提案し、子どもたちが参加していく。そういうコミュニティをつくろう。そんなことを考えています。渋川市はコミュニティ・スクールを何年もかけて検討してきたのは、今までの三者連携は一斉にやりましょう。市の方で教育委員会の方でやってくださいとお願いをしてやってもらった。コミュニティ・スクールは、研修しながら総合教育会議で提案しながら、そしたら地域の方からコミュニティ・スクールはいいですね。やりましょうよ。ある地域からは来年からやりましょうと声が上がってきた。それが金島地区。それで金島地区は上手くスタートできた。地域の中から声が上がってくる。まさに主体性があると思いますね。ですから、今年度から一斉にではなくて、準備が整ったところからやりましょう。形よりも実を取ったというそんな意識でございます。よろしくお願ひします。

鳥山委員

豊秋地区では既に新しい三者連携ができる前の段階ですけれども、南小地区だけを除いて、納涼祭、運動会、元旦マラソン、芸能発表会とすでに公民館を中心にした事業を行ってまいりました。ただ、南小地区だけ入っていないだけなので、これからいろいろな面で地域の実情もあると思いますけれども、スムーズに入っていけると思います。それから教育委員会の方に公民館を中心としたコミュニティ・スクールが導入された場合に、豊秋公民館の館長が出席しておりません。渋川地区の公民館は出席しておりません。中央公民館が代表として出ているようなので、そのへんを検討していただけたらと思います。

高木市長

豊秋も三者連携以前から長い歴史があつて、コミュニテ

教育部長

イ・スクールのことをやってきたんだと思います。それぞれの地域で、こういう取組は渋川市は素地があるんだと思います。その特色を生かしていければと思います。公民館長が中心にとのことですが、それもそういうことなんだと思います。昔は、学校教育と社会教育、社会教育は生涯学習になっていきましたが、分化していったように思います。学校と地域が一体となって行うというのは、歴史的な流れだと思います。公民館を中心という鳥山委員の意見がありましたけれども、そのへんの考えについては、いかがですか。

鳥山委員がおっしゃるように、これまでも多くの公民館で学校と共同で何かを行っていくというようなことは、すでにされていることもあります。そこに地域の人に加わっているというケースは非常に多くございます。小野上地区は顕著だなど思っています。公民館を核としまして、地域の方が生涯学習活動を熱心にやっていらして、その中に子どもたちを巻き込んで進めていく事業が、ここ数年非常に多くなってきております。おそらく鳥山委員がおっしゃるように豊秋地区でもそういった取組・活動をしていただけているものかと思っております。また、それ以外の公民館でも子どもを巻き込んだ形で進めていく事業というの、公民館で企画されています。それがコミュニティ・スクールを通してさらに活性化していくのかなと思っております。コミュニティ・スクールを先進的に始めた学校に聞いておりますところでは、例えば、学校から希望があったということで、公民館で夏休みの子どもの作文の教室をやって欲しいと希望があったそうです。公民館で子どもたちのためにということで今年度初めて行うような話を聞いているところです。こうしたことがどんどん広がって行って、いろんな地域で公民館が活動するにあたり、学校、地域いろんなところを取り込みながら進めていけるというのが、まさにコミュニティ・スクールの本質に合っているのかなと思っております。それについては、公民館活動を充実させながら、学校との連携を進めていきたいと考えているところでございます。

|           |   |
|-----------|---|
| 中沢<br>教育長 | <p>さらに付け加えさせていただきますと、鳥山委員ご指摘の旧市内の豊秋、金島、渋川公民館とまわりの旧市外の区割りの違いがあって、決裁権を持っている課長級がいる伊香保、小野上、赤城地区、そして、中央公民館が統括している市内の公民館。学校区ごとに公民館がきちんとあってということが公民館の非常に良いところで、公民館が主体になると思うのですけれども、中央公民館が統括しているのが、旧市内の渋川市だけということで、このへんは制度上考えていかなければならないと思います。教育委員会に参加するのは、中央公民館長だけで、豊秋も金島も古巻も参加しない。この区割りの問題、中央公民館だから全部やっても良いと思うし、それぞれが決裁権を持っても良いかなとも思う。そのあたりの行政上の課題があります。今後、検討していただければと思います。</p> <p>公民館の区割りも、きちんとしていて、小野上、赤城など学校ごとに公民館、その学校区だけを考えれば良いのだけでも、一部ぐちゃぐちゃになっているところがあります。それが豊秋小、南小、北小の公民館の関係。そのへんの区割りの関係も今後の課題かなと思っております。</p> |
| 鳥山委員      | <p>ありがとうございました。それぞれの公民館長は立派な人がいると思いますので、みんなどこも同じような事業をやっておりますので、そのへんを検討していただければと思います。よろしくお願いします。</p>  |
| 高木市長      | <p>このコミュニティ・スクールもそうですけども、地域づくりとして公民館の果たす役割は非常に大きいものがあると思っています。渋川市は合併しましたがけれども、公民館を核にしてそれぞれの地域を作っていければと思います。その拠点になりますハードの面ではいろいろと課題がありますけども、古巻公民館をつくったり、その後は、豊秋公民館を考えていかなければいけないなと思っています。</p>  |
| 岩崎委員      | <p>コミュニティ・スクールの導入について、昨年度もこちらの教育総合会議でどこの学校が参加すると名乗り上げていた</p>  |

ところから、さらに少し増えて効果が上がったことは大変喜ばしいことだと思います。現状、三者連携で進めている学校でも来年度から参加しようかなと言う声も聞こえてきております。今まで三者連携に携わってくれた充て職で選ばれていた人が多かったと思うんですけれども、地域で役をやっているからいらっしゃるという方だけではなくて、このコミュニティ・スクールの学校運営協議会には主体的に学校に関わるんだ、この地域を良くするんだという魂を持った方たちにぜひ集まって、これからのコミュニティを支えていただいて、今の学校を作る支えることはもちろん、これから20年30年後の社会を作っていくという姿勢で携わっていただきたいなと思っております。このあたりの委員さんに対する気持ちを大事にさせていただいて、学校が良くなると、その地域に住みたいという移住者が増えてくると思います。何よりも教育を求めて移住したという例が全国各地でありますので、人口減少を嘆くのではなくて、妊婦が少なくなったなり、子どもを手厚く育てていただいて、ありがたいこともあるんですけれども、やはり子どもは友達をたくさん作りたいと思っています。大人もたくさん友達を作って学び合うということが大事だと思いますので、そういうところを考えていただけたらなと思います。コミュニティ・スクールという名前がカタカナなので、地域の方にはなじみにくいと思います。地域の方には、地域の学校ということで周知していただくと良いのかなと思っています。私自身が去年も話をしたんですけども、学校運営協議会とは名前は違うんですけども、放課後子ども教室のサポートをしたりですとか、絵本の読み聞かせをしたり、そういった経験を得ながら母親として学校に主体的に関わっていくことができたのは、学校側からボランティアを募集しますというお知らせをいただいたので、私にも少しできるのかなとほんの少しの第一歩を踏み出すことができて、だんだんと学校に関わることで、ここに教育委員として、保護者代表として座らせていただいております。たくさんの方、いろんなことができる保護者の方が渋川にはたくさんいますので、そういった方たちが第一歩を踏み出せるような枠組みというか積極的に関わってくれた方はもちろんなん

|                              |  |
|------------------------------|--|
|                              | <p>ですけれども、今まで鷹が爪を隠しているような方も第一歩を踏み出せるような取組ができるといいなと思います。</p> <p>質問ではないんですけども、コミュニティを作るということは、渋川市の未来を創っていくことだと思いますので、コミュニティ・スクールの導入に二の足を踏んでいる地域は、ぜひ、大丈夫だよと勧めていっていただけたら良いかなと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>高木市長 コミュニティ・スクールに期待を込めて広げていけると良いと思います。</p> <p>中沢教育長 いろいろ貴重なご意見ありがとうございます。岩崎委員がおっしゃった学校運営協議会の委員の選出というのは非常に大事なところで、充て職を充てて合議して学校の経営を考えようというものではない。みんなで考えて合議制で学校の経営方針を決めようと、そんなものではない。学校長が経営方針を示す。それに賛同をいただければ、それに全力で向かって前に進む後ろ盾になってもらう。そのためには、充て職ではなくて、自然と充て職になってしまうのだけれども、地域の中で熱く教育を思ってくくださる方を校長が推薦し、教育委員会が任命する形になっていますので、まさに、そのへんのところを校長は意識してやってくれると良いなと思っているところでもあります。とにかくは、始まったコミュニティ・スクール、地域の皆さんから起き上がってきたコミュニティ・スクールからぜひ、成功させるように今後とも一緒に参画しながらやっていきたいと思っています。</p> |
| <p><b>(3) 小中一貫教育について</b></p> |  |
| <p>高木市長</p>                  | <p>それでは、次に議題の3の小中一貫教育にはいります。教育部から説明をお願いします。</p> <p><b>【教育部 説明】</b></p> <p>高木市長 小中一貫教育について、総合教育会議で議題にするのは初めてのことであります。教育環境が変わってきている中で、小中一貫というあり方も検討の一つだと思っています。この</p>  |

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>今井<br/>職務代理</p> | <p>ことについて、まだ具体化していませんけれども、ご意見等伺えればと思っています。</p> <p>小中一貫教育については、藤岡市が先進的に行っております。一部ですが、紹介いたします。藤岡市では、小中学校が目指す子ども像を公開し、9年間を通じたカリキュラムを作成し、継続的な教育を行っており、9年間の学びを意識した授業づくりを行っています。コミュニティ・スクールに先立ち、平成26年に小中一貫教育を導入しております。その3年後の平成29年度にコミュニティ・スクールを導入しました。特徴としては、9年間のカリキュラムを地域に提示することで、住民からの様々な協力を得られやすくなったということでした。小中一貫教育の効果としては、小学校高学年、中学生の学力が伸びている。国語、算数及び数学が好きな児童生徒が全国平均を大きく上回っている。教育活動が更に充実しているということで、9年間の一貫カリキュラムの良さとして、「既習内容を確認できる」「学習の見通しを持てる」「各教科の全体像を把握できる」等が挙げられていました。コミュニティ・スクールが学校と地域をつなぐ仕組みで、小中一貫教育は、小中学校の児童生徒間、教職員をつなぐ取組であり、双方を両輪として教育活動の充実を図っているということで大変参考になりました。</p> <p>次に、小中一貫教育校の施設形態について、渋川市に置き換えて考えてみますと、市内では小学校、中学校が隣接していて、一つの小学校から一つの中学校という学校区もあります。また、小中学校がそれぞれ離れていて、複数の小学校から一つの中学校という学校区もあります。児童生徒にとって、最適な小中一貫のあり方は、地域性を考慮に入れると、まだまだ調査していく必要があるかなと思います。先ほどの議題のコミュニティ・スクールが、調査から導入まで約3年間かかっています。また、今後も導入が全校に移行するのにも約3年間で予定しています。この期間というのは、コミュニティ・スクールの全校展開にしたがって、学校と地域の特徴がよく見えてくる時期だと思いますので、この時期こそ、地域の学校の良さを最大限に生かせるような小中一貫教育のあり</p> |
|--------------------|--|

|      |   |
|------|---|
| 岩崎委員 | <p>方を検討していく時期だと思っております。私からは以上です。</p> <p>小中一貫教育で思い出されたのが、小野上中学校に転校前、実家に戻ってきた時に、バスで学校に迎えに行く時に、中学校と小学校の児童生徒が一緒になる時間が少しだけありました。その時間のことをたまに思い出して、娘が近くに住んでいる〇〇ちゃんが中学校の勉強をされていて、中学校の勉強は難しいのと聞いたら、全然難しくないよと言って、そんなことを笑顔で話してくれたことを最近思い出して話をしたことがありました。小中一貫にするメリットはたくさんあると思います。メリット・デメリットをこちらの資料でたくさん挙げてくださっていると思うんですけども、こうした直接子どもの立場に立ってみると、中学生になると、いきなり制服を着てきりっとした〇〇ちゃんと呼んでいた人が、〇〇先輩になって、話しがたい存在になってしまうのが、もしかしたら、小中一貫になることで、同じ行事を体験したりとか出会う機会が増えることによって、そこが緩和されて、いずれどこかで活躍して戻ってくるかもしれない子どもたちが、戻ってきた時に思い出が少しでも増えるということは、良いことではないかなと思っています。ふるさとを育むということでは、本当に良いことだと思います。コミュニティ・スクールと小中一貫教育というのが、密接になっているということですが、それを思い出してみますと、中学校が廃校になった時に、長女に小野上中学校がなくなったけど、どうすると話をしたら、子持中学校に行くという選択をしたくなかった訳ではないですけども、しなくても良いかなということで、中学受験をさせました。子持中学校に行かせたくないという後ろ向きではなく、前向きな気持ちで中学校受験をすることで、中高一貫校に入ることができて、中高一貫校で、中学1年生でしたけれども、高校3年生のお兄さんお姉さんの後ろ姿を見て、自分たちはこういう風に大人になっていくんだというのを、ここで学ぶことができたということも、中高一貫校の良さを感じることができました。次女については、地元の小野上小学校から子持中学校に進学しましたがけれども、子持中学校に進</p> |
|------|---|

|           |   |
|-----------|---|
|           | <p>学したことで、親が子持の地域のことを知ることができたし、子持の地区に友達を作ることでもできました。地域を知ることができたということは、本当に良かったと思っています。それを選択ができたということがポイントで、小中一貫校が良い、小中一貫校ではなくて今までの中学校が良いという選択ができること、市内にいろいろな学校がありますが、それを一斉に小中一貫教育にするのではなくて、コミュニティ・スクールと同じように地域の実情に合わせて、地域ごとのニーズに合わせて進めていったら良いのではないかなという私個人の意見ですが、そのように思いました。</p> |
| 鳥山委員      | <p>私は子育てが終わっておりますので分かりませんが、小中一貫校があれば、そこへ行ける、選べることができれば良いのかなと思います。地域とのつながりを作るのには、人間のつながりがないと、小さい頃の思い出はすごく大切なことだと思いますので、そういう学校が望まれているようでしたら、渋川に1校ぐらいはどうかなと思いました。</p>  |
| 都橋委員      | <p>こういった新しい取組は、良いことばかり先行しているような気がしてならないですね。現状の教育、小学校、中学校は良いことがいっぱいあったはずです。それを無視しないで欲しい。こういった小中一貫教育、言葉はとても素晴らしいことだと思います。では、どのように取り組んでいくんだ。先程も申し上げました具体的な取組をすることによって、こういう効果が得られるんだよと分かりやすく明示してもらえるとありがたいなと思いました。これからの取組よろしくお願ひしたいなと思います。</p>                                      |
| 中沢<br>教育長 | <p>小中一貫教育の学校については、渋川市で設置するとすれば、新しい学校を作って小中一貫の学校を作るというのは、新しい学校を作らなければならないので、無理だと思います。近くにあるから、隣接型でできれば、導入がしやすいかなと思います。例えば、前の再編統合の時に、伊香保小中学校については、小中一貫校を考慮すると書かれている。それもあって検討をしてみました。小中一貫として9年間で子どもたち</p>   |

を育てるという考え方はすごく良い。校長が1人で、同じ方針でずっと行う。小学校の先生も中学校先生も交流しながら行う。ただ、伊香保中学校の生徒数が増えるということにはならない。現在、しきりに部活動のことが課題になっていますが、伊香保小中学校という一貫校を作った時に、伊香保地区で中学生が部活動ができる体制をきちんと取れるかどうか、これは微妙です。コミュニティ・スクールも小中一貫で伊香保は作っていますけども、中学校は他と統合して欲しいというコンセンサスができた時に、小中一貫校は崩れる訳ですよ。再編統合と別問題としてはやりにくい。再編が間近にせまっている、考慮しなければならない、併せて、考えていくべきかなと思っています。再編の中で小中一貫校、選択できれば非常に良いですけども、渋川は地域の学校だし、私立学校はないし、県立の中高一貫校もないし、このへんの難しさは非常にあると思います。ただ、再編統合と小中一貫は併せて考えていかなければいけないと思っています。性急ではなく、ゆっくり理解して行った方が良いと思います。コミュニティ・スクールとの親和性が良いというのは間違いありません。コミュニティ・スクールの小中一貫というのは、9年間でみんなで育てましょうという考え方は、とても良いことだと思います。

高木市長

ありがとうございます。小中一貫制度は、全国的には増えてきているような気がします。新しい学生のあり方として検討すべき課題だと私も思っています。小中一貫ではなくて、中高一貫だってあると思います。設置者は県と市で違いますから今までありませんが、そういうところも含めて考えていければなと思います。特色ある教育、そして、コミュニティ・スクールそういったものと間然させながら議論していきたいと思っています。小中一貫制度については議題に入れたということで、一步一步意味があったなと思いますので、これからご意見いただきたいと思っています。

予定しました議題は全て終わりましたけれども、何かありましたらお願いします。

## 5 その他

|        |   |
|--------|---|
| 高木市長   | その他について、事務局からあればお願いします。                       |
| 政策創造課長 | 事務局からは、特にごさいません。                              |
| 高木市長   | 委員の皆様から何かありましたらお願いします。                        |
| 出席者    | 特になし  |
| 高木市長   | それでは、予定した議事については、滞りなく終了いたしました。ご協力ありがとうございました。 |

## 6 閉会

|        |   |
|--------|---|
| 政策創造課長 | <p>以上をもちまして、令和4年度第1回渋川市総合教育会議を閉会させていただきます。</p> <p>長時間にわたり、熱心にご審議いただき、また、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いします。</p> |
|--------|---|